

令和7年12月9日 開会

令和7年 第4回 東松島市議会定例会

議員一般質問通告書

東松島市議会

《 議員一般質問 目次 》

| 順位 | 氏名 | 件名 | 頁 |
|-----|-------|-------------------------------|----|
| 第1位 | 福田 敬一 | 1 部活動の地域展開について | 1 |
| | | 2 給食費の無償化について | 2 |
| 第2位 | 佐藤 雄則 | 1 産業祭の評価と今後の産業振興について | 3 |
| | | 2 道の駅「東松島」を核とした農業・漁業の振興について | 4 |
| | | 3 市内中学校等の音楽祭開催と文化部活動の地域移行について | 5 |
| 第3位 | 千葉 修一 | 1 人口減少対策について | 6 |
| | | 2 赤井地区の整備事業について | 7 |
| 第4位 | 齋藤 徹 | 1 大型獣から市民を守る万全の対策を | 8 |
| 第5位 | 浅野 直美 | 1 小児医療の持続的維持と県市連携強化について | 10 |
| | | 2 N F T等デジタル技術による地域活性化策について | 11 |
| | | 3 地域防災の次世代育成に向けた学校連携の強化について | 12 |
| 第6位 | 土井 光正 | 1 物価高騰対策をどのように講じるのか | 13 |
| | | 2 増え続けるクマ出没の対策を急げ | 14 |
| | | 3 道路整備等の完了に伴う関係道路の安全対策等について | 15 |
| 第7位 | 井出 方明 | 1 自衛隊松島基地との共存共栄及び連携について | 16 |
| | | 2 観光振興施策について | 17 |
| | | 3 ふるさと納税について | 18 |

| 順位 | 氏名 | 件名 | 頁 |
|------|--------|--|----|
| 第8位 | 渡邊 克己 | 1 のびる洲崎湿地を活用しての観光振興について | 19 |
| | | 2 移転元地活用について | 20 |
| | | 3 宮戸から野蒜駅間の交通環境の整備について | 21 |
| 第9位 | 千葉 信哉 | 1 消防団防火服の更新について | 22 |
| | | 2 小中学校の飲料水について | 23 |
| | | 3 J R矢本駅について | 24 |
| 第10位 | 長谷川 博 | 1 生活保護の申請について | 25 |
| | | 2 高齢者の聴力・聞こえの支援について | 27 |
| 第11位 | 大橋 博之 | 1 健康増進の取組を強化せよ | 28 |
| | | 2 3世代世帯への支援を考えるべき | 29 |
| 第12位 | 熱海 千鶴 | 1 東松島周遊タクシー「ぐるっと号」の試験運行と松島からの観光客誘致について | 30 |
| | | 2 乳がん患者への助成拡充について | 31 |
| | | 3 東松島市におけるLGBTQの理解に関する取組について | 32 |
| 第13位 | 阿部 秀太 | 1 まちづくりの施策について | 33 |
| | | 2 人口減少社会における「選ばれるまち」の住宅地整備について | 34 |
| | | 3 保育所の民営化について | 35 |
| 第14位 | 五野井 敏夫 | 1 熊対策について | 36 |
| | | 2 市街化区域拡大に伴う諸問題について | 37 |

| 順位 | 氏名 | 件名 | 頁 |
|------|-------|-------------------|----|
| 第15位 | 櫻井 政文 | 1 高市首相と女性活躍推進について | 38 |
| | | 2 災害時の独居老人等の対応を問う | 39 |
| | | 3 重点支援地方交付金について | 40 |

【質問者数 15人・質問件数 38件】

| 氏 名 | 件 名 | 要 旨 |
|-------------------------|------------------------|--|
| <p>第1位</p> <p>福田 敬一</p> | <p>1. 部活動の地域展開について</p> | <p>スポーツ庁では2023年から2025年までを部活動の地域移行「改革推進期間」としてきたが、2026年度から6年間で「改革実行期間」とし、このうち2026～2028年度を前期、2029～2031年度を後期に設定し次期改革期間内に原則、すべての学校部活動で地域展開を実現し、地域クラブ活動への転換を目指すとなっているため、東松島市としても地域展開を早急に整備していくことが大切であると考えている。そこで以下の点について伺う。</p> <p>(1) 自治体における地域展開の前期と後期スケジュールについて。</p> <p>(2) 現在考えるスポーツ・文化芸術の地域クラブ種目・種類について。</p> <p>(3) スポーツクラブ・文化芸術クラブ及び指導者の募集方法について。</p> <p>(4) 地域の子どもたちに対する募集方法について。</p> <p>(5) クラブ運営費、指導者報酬費、その他経費等の負担について。</p> <p>(6) 自治体、地域スポーツ・文化芸術団体、学校、保護者等の関係者からなる協議会の設置、連携体制の構築について。</p> <p>(7) 保護者説明会、保護者・生徒など関係者に対するアンケート等について。</p> <p>(8) 部活動の地域展開に対して、スポーツ健康都市を宣言している本市が重要視すべきと考えるところはどうか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 教育長】</p> |

| 氏 名 | 件 名 | 要 旨 |
|-------------------------|-----------------------|---|
| <p>第1位</p> <p>福田 敬一</p> | <p>2. 給食費の無償化について</p> | <p>現在、東松島市において学校給食費は防衛9条交付金を活用し、3分の2を市負担、3分の1を保護者負担としているが、令和8年度から学校給食無償化（まずは小学生）の実現に向け自民党・公明党・日本維新の会において具体的な協議を始められている。また、令和7年度予算の衆議院における審議で否決されたが、立憲民主党が学校給食費の無償化のための経費として修正案を提出していることから国負担での給食費無償化が実現する可能性が高まっている。全国の自治体で食材費の違いがあるため、一概に完全無償化とはならない可能性があるが、保護者の負担割合は確実に無償に近づくものと考えられる。そこで以下の点について伺う。</p> <p>(1) 令和8年度の小・中学校の給食費（食材費）予定金額について。</p> <p>(2) 国の負担金額にもよるが、保護者の負担割合の軽減・完全無償化の見通しについて。</p> <p>(3) 各自治体で食材費の違いがあり、完全給食費無償化の実現のため、本市として国に対して強く要望していくべきと考えるが、市長の見解を伺う。</p> <p>(4) これまで子育て支援策として、防衛9条交付金を活用して給食費の3分の2を支援しているが、給食費が無償化となった場合、防衛9条交付金を2歳以下の保育料の無償化に活用してはいかがかと考えるが、市長の考えを伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏 名 | 件 名 | 要 旨 |
|------------------------|------------------------------|--|
| <p>第2位</p> <p>佐藤雄則</p> | <p>1. 産業祭の評価と今後の産業振興について</p> | <p>11月9日開催の復興感謝第5回東松島市産業祭について、長きにわたる準備と関係機関・市民が一丸となった努力が、今回の来場者数6,500人に繋がったものと認識している。</p> <p>市産業祭は、東日本大震災からの復興感謝と地域産業の活性化を目的とする東松島市にとって、非常に重要かつ意義の深いイベントと認識でき、更には市民や市内の事業者にとって、地域の活気、にぎわいを取り戻し、未来への希望を感じさせ、本市の産業を再認識できる機会の提供は、市の活性化に大きく貢献する重要なイベントとなっている。</p> <p>この産業祭の開催を踏まえ、産業祭の評価と今後の市の産業振興策について、以下に伺う。</p> <p>(1) 入場者数を踏まえた産業祭の評価について。</p> <p>(2) 産業祭での新米の販売について。</p> <p>(3) 農産物品評会の出品数について。</p> <p>(4) 産業祭を契機とした今後の産業振興策について。</p> <p>(5) ブルーインパルス所在地のまちとして、訓練としてブルーインパルスの飛行はできないか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏名 | 件名 | 要 旨 |
|------------------------|-------------------------------------|---|
| <p>第2位</p> <p>佐藤雄則</p> | <p>2. 道の駅「東松島」を核とした農業・漁業の振興について</p> | <p>道の駅「東松島」は、地域の情報発信、交流や観光の拠点、農業と漁業等の産業振興の重要な役割を担っているが、本来の目的である農業と漁業の更なる振興につなげるためにも、観光客に対してアピールし、市内生産物を購入していただく機会を更に強化していくことが必要ではないか。地元生産者の所得向上や持続可能性という点からも、市内生産者が出荷による利益を最大化できる環境を整え、道の駅への出荷を「最も有利な販路」として位置づけることが必要ではないか。</p> <p>そこで、道の駅を核とした農業と漁業の更なる振興を図るため、以下について伺う。</p> <p>(1) 1周年を迎えたが、来場者数、売上げ目標と実績及び全販売額に対して本市産商品販売額の割合について。</p> <p>(2) 農産物・海産物の割合について。 ア 全販売額に対して農産物の販売額と割合及び農産物販売額の市内産と市外産の販売額と割合について。 イ 全販売額に対して海産物の販売額と割合及び海産物販売額の市内産と市外産の販売額と割合について。</p> <p>(3) 販売手数料が一律23%となっており、手数料が生産者の出荷意欲に与える影響は小さくない。市内生産者への手数料を20%程度にしているかがか。生産者の出荷意欲向上に繋がるのではないか。</p> <p>(4) 新鮮な季節商品の販売を特定の曜日や期間を決めて、地元生産者・漁業者による対面販売形式の「定期直売会」を行うのはどうか。道の駅の「顔」となり集客力向上につながるのではないか。</p> <p>(5) 矢本パーキング上り線と下り線の連絡通路の設置や下り線管理用通路から百合子線を通り道の駅南側駐車場へ通行可能となれば、来客者の利便性と集客力向上になると思うかがか。また、救急対応のための北側駐車場と南側駐車場の行き来ができる通路の整備について伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏名 | 件名 | 要旨 |
|------------------------|---------------------------------------|--|
| <p>第2位</p> <p>佐藤雄則</p> | <p>3. 市内中学校等の音楽祭開催と文化部活動の地域移行について</p> | <p>1 1月23日にコミュニティセンターで行われた市政功労者表彰式において、矢本第一中学校の吹奏楽部の記念公演は、音響が整備されたコミュニティセンター大ホールで多くの聴衆のなかで演奏したことは、普段の学校生活では経験できず、生徒たちの「達成感」「自信」につながる、とても意義のある経験になったと思料される。</p> <p>また、中学校等の文化部活動の地域移行は、生徒の活動機会の確保、教員の負担軽減、地域の文化振興といった多面的な意義を持つ国の重要な方針であり、本市においても、国の提言や県の方針を踏まえ、着実にこの取組を進める必要がある。</p> <p>そこで、本市の「文化振興」と「音楽教育の資質向上」からも、中学生等（保育園・幼稚園、小学生、高校生）の「音楽祭」の開催及び本市における文化部活動の地域移行に関する現状と今後の具体的なスケジュール、そして一般吹奏楽団を含む地域団体、個人の指導者との連携のあり方について伺う。</p> <p>(1) 音楽祭を開催することは、市内学校間の交流、つながりが形成されると思料するが、音楽祭を開催してはどうか。</p> <p>(2) 文化部活動の地域移行に関する検討会議提言（令和4年8月9日手交）で、令和7年度末までに休日の文化部活動の地域移行を令和7年度末を目途としているが、本市の現状について。</p> <p>(3) 地域移行に向けた具体的なスケジュールは策定されているのか。</p> <p>(4) 本市で既に活動している一般吹奏楽団（市内地域団体）は、地域移行における文化分野の重要な受け皿となり得る。学校部活動と一般吹奏楽団等及び個人で指導ができる人材の現状をどのように把握しているか。また、どのような連携をしていくのか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p> |

| 氏 名 | 件 名 | 要 旨 |
|------------------------|----------------------|---|
| <p>第3位</p> <p>千葉修一</p> | <p>1. 人口減少対策について</p> | <p>東松島市では、少子高齢化と若年層の転出が続き人口減少が市政全般に影響を及ぼしている。地域活力の維持、財政基盤の確保、市民サービスの安定提供のためにも、人口減少対策は喫緊の課題であることから、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 直近の出生数・死亡数・転入転出の状況をどのように分析し、出生数増加・転入促進・転出防止など分野別に数値目標を明確にする考えはあるのか。</p> <p>(2) 住宅取得支援や移住者向け支援の更なる強化策について。</p> <p>(3) 保育園、認定こども園の利用環境を踏まえ、更なる利便性向上策及び子育てするなら東松島と実感できる施策をどのように展開していくのか。</p> <p>(4) 東松島市で働き続ける産業づくりとして、農業の高付加価値化、観光の再編集、産業の誘致、起業支援をどのように進めていくのか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏 名 | 件 名 | 要 旨 |
|------------------------|-------------------------|--|
| <p>第3位</p> <p>千葉修一</p> | <p>2. 赤井地区の整備事業について</p> | <p>赤井地区で現在進行中の工事及びこれからの工事について伺う。</p> <p>(1) 市道川前線と市道小松・赤井線の交差点の拡幅の改良は、どこまで進んでいるのか。</p> <p>(2) 市道川前線の商業施設側と旧交番前の歩道の設置及び横断歩道の設置について、どのように考えているか。</p> <p>(3) 市道川前三2号線と市道小松・赤井線交差点部の改良進捗状況及び交差点付近の排水溝に水が滞留して匂いがする箇所があるが、改善の考えはあるか。</p> <p>(4) 柳の目地区の南工区で造成工事が始まったが、第二柳の目踏切の拡幅はどのように進んでいるのか。</p> <p>(5) 赤井地区の防犯灯について、蛍光灯からLEDへの交換はどこまで進んでいるのか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏名 | 件名 | 要旨 |
|-----------------------|----------------------------|--|
| <p>第4位</p> <p>齋藤徹</p> | <p>1. 大型獣から市民を守る万全の対策を</p> | <p>全国で多発するクマの目撃情報や人的被害の報道等の過熱により市民生活に大きな不安が生じているものと考え る。 本市においてもクマの目撃情報が頻繁に防災無線で流れていることもあり、市民の意識は高まっていると推察されるが、今後、本市としてどのように対応していくのか見解を伺う。</p> <p>(1) 山際の草刈りや警察のパトロール等、人の住む場所と野生動物の活動場所を線引きするゾーニングの考えは非常に効果的であると評価する。加えて、消防団による夜間パトロールを山際で実施することはゾーニングの考えからも有効と考えるがいかがか。</p> <p>(2) 餌不足を要因として人里への侵入をしているとの見方があることから、柿などの未収穫果樹に対する対応を今後どのように行なっていくのか。また、里山管理の考えをどのように進めていくのか。</p> <p>(3) 鋭い嗅覚を持つクマが人里へ誘引される原因である生ゴミ等の管理については市政懇談会などで周知されているが、野良猫等を対象とした餌付け行為（生ゴミの散布）に対しての罰則は無い。市民の生命を守る観点から禁止、罰則含む条例の制定をすべきか。</p> <p>(4) ハンターの減少、高齢化の課題を解決するために狩猟免許を持つ自治体職員（ガバメントハンター）の育成が急務であると認識しているが、本市としてどのような計画を立てているか。また、民間のハンター育成も同時に進めるべきと思慮する。補助メニューは無いまでも、試験のスケジュール等の告知をわかりやすくするべきと思われるがいかがか。</p> <p>(5) 宮城県猟友会石巻市部所属の市内隊員は13名と報告を受けているが、ライフル所持資格がないことから第一種銃猟免許を取得してから10年未満であると推察される。ハーフライフル銃やライフルドチョークを装着可能な自動銃、サボット弾、スラッグ弾の撃てる散弾銃の所持者は何名いるのか。</p> |

(6) 万が一、緊急銃猟等の措置を行った場合、全国各地から動物愛護のクレームが多発することが予想される。職員の業務遂行に支障の出るような事態に陥った場合は毅然とした対応をすべきと考えるが、見解を伺う。

【答弁を求める者 市長】

| 氏名 | 件名 | 要旨 |
|-----------------|--------------------------|--|
| 第5位 浅野直美 | 1. 小児医療の持続的維持と県市連携強化について | <p>宮城県全体で小児科医師の増加率は全国と比較して低く、仙台医療圏への医師の集中や沿岸部を含む地方圏での医師確保の困難な状況が続いていることが、県の第8次宮城県地域医療計画でも課題として示されている。</p> <p>本市においても、小児科医師の不足、診療機能の地域偏在、夜間救急対応の脆弱性など複数の課題を抱えており、小児科医療を持続的に提供するには、国・県・市町村・医療機関が連携し、切れ目のない体制を整備する必要があることから、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 本市では、市独自の財政支援と医療機関への働きかけにより、令和7年4月から市内医療機関における小児科専門医の配置と週5日診療を実現した経緯がある。しかし、継続的な確保・誘致には市および医療機関に大きな財政負担が生じ、市単独での安定的運用には限界がある。</p> <p>このため、市町村の財政負担を軽減する新たな県独自の財政支援制度の創設を県に要望している。財政状況によっては小児医療体制を維持できない市町村もある中、県が一定の財政負担を行う制度は不可欠である。本要望の実現に向け、県とどのように連携し協議を進めていくのか、市長の考えを問う。</p> <p>(2) 出生数減少と医師不足が進む中、県が新たな財政支援制度を創設し、市町村とともに医療機関を継続的に支える仕組みを構築することは、小児医療の持続性の向上、地域間格差の是正、医療機関の安定経営等に大きな効果が期待される。</p> <p>併せて本市としては、相談・診療・救急・搬送・外来の切れ目のない体制整備を進め、子育て世代が安心できる環境づくりを推進すべきと考えるが、市長の見解を問う。</p> <p>(3) 小児医療を地域全体で支えるため、保護者向けの適正受診の啓発、かかりつけ医登録の推進、予防接種体制の強化などの取組が重要である。</p> <p>本市として、これらの施策をどのように進めていくのか、市長の考えを問う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏名 | 件名 | 要旨 |
|------------------------|-----------------------------------|---|
| <p>第5位</p> <p>浅野直美</p> | <p>2. NFT等デジタル技術による地域活性化策について</p> | <p>全国の自治体において、NFTを活用した地域活性化施策、行政参加の見える化、観光誘客や関係人口創出の手法が広がりつつある。</p> <p>本市においても、令和5年4月にデジタル推進課を創設し、行政DXの推進体制を強化している。この体制のもと、今後、市民サービスの付加価値向上や地域活性化に資するデジタル技術の活用を推進していく必要がある。</p> <p>「デジタル市民証」や「地域活動の証明としてのNFT活用」は、既に全国のいくつかの先進的な自治体で具体的な成果を上げており、全国的なトレンドであることから、本市がデジタル推進課を中心に導入を検討する価値は非常に高いと考えられる。</p> <p>以上の状況を踏まえ、NFT等のデジタル技術を活用した施策の今後の発展について、以下に伺う。</p> <p>(1) 他の先進自治体では、NFT技術を活用したデジタル市民証や地域参加証明等の取組が進んでおり、市民サービスの付加価値向上、地域活動の可視化、関係人口拡大などの効果が報告されている。</p> <p>本市として、将来的なデジタル市民証やNFT活用サービスの導入可能性について、市長の見解を伺う。</p> <p>(2) NFT等のデジタル技術は、地域イベント、防災訓練、ボランティア活動等の参加履歴をデジタル上で証明し、市民参加の可視化や、交流人口・関係人口拡大につなげる手法として活用が期待される。デジタル推進課の創設により、本市においてもデジタル施策の体系的な推進が可能となっている。</p> <p>デジタル技術を活用した市民参加型施策の導入意向、及び地域活性化との関連について、今後検討すべきと考えるが、市長の見解を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏名 | 件名 | 要旨 |
|------------------------|-------------------------------------|---|
| <p>第5位</p> <p>浅野直美</p> | <p>3. 地域防災の次世代育成に向けた学校連携の強化について</p> | <p>地域の自主防災組織では、高齢化や人員不足が進み、特に平時の防災訓練や避難所運営の担い手不足が顕在化しており、活動の継続性が危惧されている。組織の持続性を確保するためには、地域防災を支える次世代の育成が不可欠な喫緊の課題である。</p> <p>一方で、学校教育においては、文部科学省の学習指導要領に基づき、防災教育が明確に位置付けられ、児童生徒の地域理解や参画意識を育む取組が計画的に進められている。本市においても、次世代を担う人材を育む学校教育活動が展開されているが、今後は更に実践的な学びを深め、有事の際には高齢者を助け、地域の力となる人材を育成していくことが強く望まれる。</p> <p>以上の状況を踏まえ、地域防災を担う次世代育成のため、地域自主防災組織と小中学校の連携強化について、以下に伺う。</p> <p>(1) 矢本第二中学校の防災委員会など、校内組織による主体的な防災活動はモデルとなり得るが、校内に限定された取組のみでは地域防災組織との連携や相互理解の深化には限界がある。特に、東松島市総合防災訓練への中学校区単位での参画は、児童生徒が地域の一員としての役割を果たし、地域住民が次世代の存在を実感する重要な機会である。</p> <p>自主防災組織と小中学校の交流機会の創出、地域訓練への児童生徒の段階的な参画、教職員との情報共有体制の整備など、連携モデルの構築を求めるが、教育長の見解を伺う。</p> <p>(2) 地域防災訓練における担い手としての参加促進は、児童生徒の避難行動の理解向上に加え、地域住民への若い担い手の存在感、また「魅力ある学校づくり」の基本方針の一つである「出番・役割・承認」を児童生徒に与え、組織の活力向上にも寄与する。</p> <p>持続可能かつ実効性のある運用体制の構築に向け、自主防災組織へDOPPOの周知を図ることや学年に応じた無理のない参加形態として、見学、体験、役割参加等を検討し、また成果を学校教育へフィードバックする仕組みなど、学校・地域の発展に資する双方向の運用体制及び今後の計画について、検討を求めるが、教育長の見解を伺う。</p> <p>【答弁を求める者 教育長】</p> |

| 氏 名 | 件 名 | 要 旨 |
|-------------------------|-----------------------------|---|
| <p>第6位</p> <p>土井 光正</p> | <p>1. 物価高騰対策をどのように講じるのか</p> | <p>燃油等高騰に端を発する物価の高騰については、市民生活の甚大な影響を及ぼしている。特に主食である米は、昨年の高騰時から1.4倍になり、他の食料品も今年の1月から6月までに5.2%の上昇となり、12月まで更に上昇幅が増えていくと推測される。物価高で苦しむ家計の負担を軽減するために「即効性のある緊急支援」が必要と考える。現在国では、総合経済対策を閣議決定し、自治体独自の物価高対策の財源となる「重点支援地方交付金」も拡充されたと聞き及んでいる。このことから以下の点について伺う。</p> <p>(1)重点支援地方交付金をどのように活用していくのか。</p> <p>(2)米を含む食料品高騰支援について。</p> <p>(3)事務コストがかからず早くできる水道基本料金の支援について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏 名 | 件 名 | 要 旨 |
|-------------------------|---------------------------|---|
| <p>第6位</p> <p>土井 光正</p> | <p>2. 増え続けるクマ出没の対策を急げ</p> | <p>この秋は、宮城県を含む全国各地でクマの出没のニュースが取り上げられている。本市は例年になくクマ出没により、防災無線から注意喚起がひっきりなしに放送されていた。その度に不安がつり、市民生活が脅かされている状況である。地域の安全・安心確保に向け、クマの捕獲を含む出没防止策について、強力で推進すべきと考え、以下の点について伺う。</p> <p>(1)改正鳥獣保護管理法による本市の対応について伺う。</p> <p>(2) 広域連携のクマ対策を提言するがいかがか。</p> <p>(3) 通学路上のクマ出没情報により、緊急事態と判断した場合に限り、臨時的にスクールバス利用をお願いしたいとの要望が、川下地区等の保護者から複数聞かれているが、教育長の考えを伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p> |

| 氏 名 | 件 名 | 要 旨 |
|-------------------------|-------------------------------------|--|
| <p>第6位</p> <p>土井 光正</p> | <p>3. 道路整備等の完了に伴う関係道路の安全対策等について</p> | <p>本市においても道路狭小による拡幅工事や交差点改良工事等、様々な工事が進められている。日常生活が便利になった反面、関係道路の交通量増加等による問題等が発生している。このことについて、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 大曲筒場の国道45号と市道寺沼線の交差点について、都市計画道路矢本門脇線からの交通量増大で交差部の停止線が前方に変更された。このことによって、特に朝夕の時間帯で市道寺沼48号線からの交差点流入ができなくなり、トラブルが発生している。この変形交差点の改良計画について伺う。</p> <p>(2) 市道川前三2号道路が来年3月に完成する予定であるが、市道小松赤井線の交差点改良により、南新町方向から北側方向への通行が良くなるが、反対に南新町方向への抜け道となるため、団地内の交通量が多くなり、交通安全に支障来すと考えられる。その対策について伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏 名 | 件 名 | 要 旨 |
|------------------------|---------------------------------|---|
| <p>第7位</p> <p>井出方明</p> | <p>1. 自衛隊松島基地との共存共栄及び連携について</p> | <p>自衛隊松島基地との共存共栄及び連携について、以下に伺う。</p> <p>(1) 三沢基地からF-35が代替飛行場慣熟訓練のために時折飛来してきている。愛好家には好評ではあるが、松島基地で通常運用しているF-2やT-4と比較して騒音が大きく感じられる。 米軍機以外のF-35騒音測定は行ったことがあるのか。また、この騒音対策については、どのように考えているのか。</p> <p>(2) 道の駅東松島に展示予定のブルーインパルス機体移設及び維持経費は確保出来たと認識している。設置方法について様々な意見がある中で、どのように設置するのか。 また、鹿妻駅前のT-2ブルーインパルス機体同様に屋外展示では定期的な塗装を含めた補修作業が必要となる。これに係る経費及び財源について伺う。</p> <p>(3) 高市総理は防衛費のGDP比2%への引上げを前倒しすると所信表明演説において発言された。これに伴い、基地内施設工事も加速していくことが予想されるが、最近の動き及びそれら施策による東松島市経済への影響について、市長の見解を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏名 | 件名 | 要旨 |
|------------------------|----------------------|--|
| <p>第7位</p> <p>井出方明</p> | <p>2. 観光振興施策について</p> | <p>昨年度を観光元年と位置付け、観光振興に取り組まれているところであるが、次の点について伺う。</p> <p>(1) 東松島市第2次総合計画後期基本計画において、観光客入込数162万人、宿泊者入込数16万人を目標としているが、達成見積りについてはどうか。また、この結果についてどのように評価しているか。</p> <p>(2) 同計画において情報発信の強化主要事業の一つとして「市内観光資源や周辺観光地との連携の強化と情報発信」をあげているが、その具体的な成果について。</p> <p>(3) また同計画における施策で受入体制の整備として「観光客受入のための環境及び体制づくり」をあげているが、どのような整備を行い、どのような効果があったのか。</p> <p>(4) ブルーインパルスの飛行場上空訓練が事前に発表されていて、天候の良い日には平日でも多くのファンが基地周辺に来られており、昼食も周辺の飲食店等を利用されている。11月の晴天日に確認すると、本市の用意したブルーインパルス駐機場横の駐車場は満車であり、他にも滑走路周辺及び北上運河沿いの堤防、海岸沿いの防潮堤を合わせると200台以上の車が来ている。これらのファンを観光振興に結び付ける施策について、検討している事項があるのか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏 名 | 件 名 | 要 旨 |
|------------------------|----------------------|---|
| <p>第7位</p> <p>井出方明</p> | <p>3. ふるさと納税について</p> | <p>ふるさと納税は本市の貴重な財源である。寄付額を増やすために担当者の配置、会議の開催、クラウドファンディング等の取組で昨年度よりも伸びていると認識している。しかし隣の石巻市は4年間で約5倍以上の20億円を超えたとの報道があった。今後の目標を含めた取組について何う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏 名 | 件 名 | 要 旨 |
|-------------------------|---------------------------------|--|
| <p>第8位</p> <p>渡邊 克己</p> | <p>1. のびる洲崎湿地を活用しての観光振興について</p> | <p>震災により野蒜地区は大きな被害を受けたが、のびる洲崎湿地は奇跡的に残った。淡水と海水が混ざり合う汽水域で、様々な生き物が生息し、ミサゴやコチドリなどの野鳥が見られ、冬には渡り鳥の中継地点としてたくさんの水鳥がやってくる。本年2月には、東松島市の自然資源の特色を最大限活かし、野蒜地区洲崎湿地を中心としたウエットランドの再生・創出を行うことで、生物多様性を向上させ、地域の農業、漁業、観光資源をより魅力ある産業に展開し、より持続可能で魅力的な地域づくりに寄与することを目的に、一般社団法人バードライフ・インターナショナル東京、一般社団法人C. W. ニコル・アフアの森財団が中心となり「のびるウエットランドパーク推進協議会」が設立された。そこで、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 湿地は、本市の観光振興（インバウンド観光）に寄与すると考えるが、市長の考えを伺う。</p> <p>(2) 発足された推進協議会と本市の関係調整、進め方をどの担当部・課が担うのか。</p> <p>(3) 過去に二か所あった海水の流入か所が、震災により一か所となり、その海水の流入も高い位置にあり流入しにくい状況で水質悪化が懸念される。どのように対策をこうじるか。</p> <p>(4) 湿地の地域開発には、特別名勝松島の規制緩和が必要となる。緩和のためにどのように考えているのか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏 名 | 件 名 | 要 旨 |
|------------------------|----------------------|---|
| <p>第8位</p> <p>渡邊克己</p> | <p>2. 移転元地活用について</p> | <p>震災から15年目に入り、野蒜地区においては集団移転事業も完了しているが、令和の果樹の花里づくり事業を含めた野蒜地区の利活用以外の土地は、令和7年3月末現在、12.6haとなっている。県、市、個人と所有者が混在する地域であるが、今後どのような活用策を考えているか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏 名 | 件 名 | 要 旨 |
|-------------------------|--------------------------------|---|
| <p>第8位</p> <p>渡邊 克己</p> | <p>3. 宮戸から野蒜駅間の交通環境の整備について</p> | <p>(1) 宮城県が主体となり、宮戸・野蒜地区の主要な観光スポットを巡る「奥松島周遊ぐるっと号」による試験運行が10月11日から26日に行われた。利用者数が土日祝の計7日間で計28人と利用者が伸び悩む結果となったことについて、どのように考えているか。</p> <p>(2) 宮戸地区では、人口が令和7年6月末現在411人、高齢化率も50.7%になっている状況で、デマンド型乗合タクシー「らくらく号」昨年度の利用者数は、1,163人で全体34,933人の3.3%となっている。らくらく号の利活用の今後の方向性を伺う。</p> <p>(3) 宮戸・野蒜地区含む鳴瀬地区において、地域住民の足の確保及び観光振興並びに交流人口創出のため、過疎対策事業債の活用により、バス等の購入などの整備が出来ないか伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏 名 | 件 名 | 要 旨 |
|-----------------------------|-------------------------|--|
| <p>第9位</p> <p>千葉 信哉</p> | <p>1. 消防団防火服の更新について</p> | <p>消防団の防火服は配備されてから13～16年が経過している。本年度から防火服の更新を行い、12月中に10セット用意するとのことだが、仮に27の部に5着ずつ配備するとすれば、このペースでは全ての部に行き渡るまで14年もかかってしまう。来年度以降配備ペースを上げることはできないか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏 名 | 件 名 | 要 旨 |
|-----------------------------|------------------------|--|
| <p>第9位</p> <p>千葉 信哉</p> | <p>2. 小中学校の飲料水について</p> | <p>市内の小中学生は飲料水として水筒を持参して通学しているが、これが荷物になって難儀している。特に夏場の運動部の生徒は水筒の他にペットボトルも数本持参している状況である。多くの荷物を抱えたまま登下校するのは、交通安全上問題があるので、多くの家庭で取り入れているような水道の蛇口に取り付けるタイプの浄水器を学校の水道にも取り入れてはどうか。または、ウォーターサーバーの設置を検討してはどうか。</p> <p style="text-align: center;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p> |

| 氏名 | 件名 | 要旨 |
|------------------------|---------------------|--|
| <p>第9位</p> <p>千葉信哉</p> | <p>3. JR矢本駅について</p> | <p>来年度から始まる東松島市第3次総合計画案について、その中の重点プロジェクトに「安全・安心に暮らせるまちづくりプロジェクト」があるが、そこに駅周辺の利便性向上のため、矢本駅舎の改修が挙げられている。現在の駅舎は、宮城電鉄時代の昭和3年から約1世紀にわたって使われている大変歴史的価値のあるものであるが、以下の点について伺う。</p> <p>(1) JR東日本に対して建替えの要望をしていると思うが、現在の状況について。</p> <p>(2) 南北通路の実現可能性は。</p> <p>(3) 駅前広場のロータリー整備の進捗状況について。</p> <p>(4) トイレの改修について。</p> <p>(5) 駅周辺の商店、飲食店の活性化のため低料金で利用できる公的駐車場が必要と思われるが、いかがか。</p> <p>(6) ホームに屋根があると雨の日に便利であると思うが、いかがか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏名 | 件名 | 要旨 |
|-------------------------|-----------------------|---|
| <p>第10位</p> <p>長谷川博</p> | <p>1. 生活保護の申請について</p> | <p>令和7年8月31日付け河北新報に「1円単位で財布中身確認」「生活保護申請抑制目的？」とのタイトルで三重県鈴鹿市の事例が報道された。新聞記事で【鈴鹿市では生活保護申請の際、財布にある現金を箱に出させ、1円単位で確認していることが、関係者への取材で分かった。厚生労働省によると、申請時には資産や収入を報告するよう求めるが、財布内まで調べる規定はない。近隣の自治体では申請者の自己申告にとどめている。申請者から『惨めな気持ちになった』という声上がり、専門家は『申請をためらわせる恐れがある行為だ』と批判している】と、このような書き出しで記事が掲載された。そこで、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 新聞報道が行われる少し前、自分も相談者に同行して生活保護申請窓口を訪問した際に、全てとは言わないが鈴鹿市と同じような場面を経験している。申請受付が終わって、相談者からは『財布を逆さまにして、空っぽの底を見せた』『とてもいやだったけれど、申請を認めてもらう立場で、拒否できず言うとおりにするしか無かった』と漏らされた。</p> <p>本市の窓口で全てのケースに同様の対応を行っているかは不明だが、少なくとも自分が体験したこのような対応には問題があると言わざるを得ない。</p> <p>現状、所持金の確認について、窓口対応の実情はどのようなになっているのか。</p> <p>(2) 財布の中身確認は、前出した新聞記事の後段で意見を寄せている生活保護行政に詳しい花園大学の吉永純教授によれば、「申請者の尊厳を傷つけ屈辱感を与える行為。生活保護だけは受けたくないという思いにさせられ、申請の意思を萎縮させる」と指摘している。こうした識者の意見に対しての受け止めはどうか。</p> <p>(3) 財布の中身を出させることは、生活に困る・困らないに関わりなく、誰にとっても屈辱的な行いを強いることであり、人としての尊厳を傷つけ、人権侵害に当たる行為だと考える。</p> <p>「手持ち金」の確認で、所持している現金の(財布の中身)確認は「財布の中身を全部出して見せて下さ</p> |

い」ではなく、厚労省規定のとおり『自己申告制』に改めるべきだと考えるがどうか。業務上、不正受給や不正支給を見逃さないという立場は理解するものの、信用よりも疑いが先んじることになり、申請者・利用者を「支援する」より「管理する(?)」という姿勢が先行していると感じてしまうところだが、市長の見解を伺う。

【答弁を求める者 市長】

| 氏 名 | 件 名 | 要 旨 |
|-------------------------|-----------------------------|--|
| <p>第10位</p> <p>長谷川博</p> | <p>2. 高齢者の聴力・聞こえの支援について</p> | <p>高齢者は歳とともに聴力が低下する傾向にあり、会話や交流に差し障りが生じ、閉じこもりや認知症につながることもされている。そうした状況を鑑み、検討の結果本市では令和5年度から「高齢難聴者への補聴器購入助成」を行っており、東松島市の誇れる施策として市民に大変喜ばれている。そこで、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 加齢による難聴は避けられず、加えてこの先も高齢者人口は増加する傾向にあり、助成制度の継続はもとより、充実（耐用年数買い換え、修理・調整など）を望むがどうか。</p> <p>(2) 身体障がい、要介護認定レベルとなるケースでは聴力の測定や検査を実施されることになるが、この際、通常の高齢者の健康診査においても、聴力の測定を検査項目に加え、聞こえの程度を各人が把握できることが望ましいと考えるものだ。</p> <p>「知らず知らずのうちにテレビの音が大きくなってしまった」という話は、高齢者の間では日常的に良く耳にする会話である。市長の見解を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏 名 | 件 名 | 要 旨 |
|-------------------------|------------------------|---|
| <p>第11位</p> <p>大橋博之</p> | <p>1. 健康増進の取組を強化せよ</p> | <p>社協創立20周年記念として、いきいき百歳体操情報紙「いき百瓦版」を拝見した。現在71サークル約1,400人が活動されていると知り、素晴らしい取組に感動した。まさに健康づくりの王道である。</p> <p>一般的に健康増進に効果があるといわれる体の運動、心の健康のための笑うこと音楽にふれること等をしっかり実践していくことが重要と考える。今後、心の健康に効果がある取組を強化していくべきと考える。</p> <p>そこで、以下の点について、市長の所見を伺う。</p> <p>(1) ミュージックセラピー（音楽療法）の普及に力を入れてはどうか。各種の団体への行政としての支援策を拡充してはどうか。</p> <p>(2) 笑うことが心の健康に効果があるという実証実験をふまえ、本市としても事業として採用してはどうか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏 名 | 件 名 | 要 旨 |
|-------------------------|---------------------------|---|
| <p>第11位</p> <p>大橋博之</p> | <p>2. 3世代世帯への支援を考えるべき</p> | <p>最近の社会では核家族化が一般的であり、戦前では中心であった家単位の家族構成では3世代以上の同居が当たり前であった。現在の少子高齢化・人口減少社会の要因についても少なからず影響しているのではないかと考える。そこで、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 学力向上に祖父母の方々の力をおかりしてはどうか。</p> <p>(2) 子育て支援策として、3世代世帯に手当を支給してはどうか。</p> <p>(3) 3世代同居を推奨することで少子化対策の一助になると思うが、いかがか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p> |

| 氏 名 | 件 名 | 要 旨 |
|-------------------------|--|---|
| <p>第12位</p> <p>熱海千鶴</p> | <p>1. 東松島周遊タクシー「ぐるっと号」の試験運行と松島からの観光客誘致について</p> | <p>景勝地・奥松島など、宮戸・野蒜地区の主要な観光場所を巡る周遊タクシー「ぐるっと号」の試験運行が、2015年以来10年ぶりに宮城県東部地方振興事務所が主体となり、10月11日～26日の土・日・祝日に行われた。その運行状況と、松島、宮戸間を運行している定期船について、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 利用者が土・日・祝日の7日間で28名の利用だったが、人数が伸び悩んだことについての要因を伺う。</p> <p>(2) 2018年にオルレが導入したにもかかわらず、利用者が2015年の試験運行の平均人数6.6人を下回ったことについて所見を伺う。</p> <p>(3) 今回の試験運行の結果を受け、東松島市として観光客及び宮戸地区民の足の確保について伺う。</p> <p>(4) 今年度新規に松島海岸と宮戸間を結ぶ定期航路が新設されたが、これまでの乗客数について伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏 名 | 件 名 | 要 旨 |
|------------------------------|---------------------------|---|
| <p>第12位</p> <p>熱海 千鶴</p> | <p>2. 乳がん患者への助成拡充について</p> | <p>乳がんの早期発見・早期治療を促すため、全国の各自治体が受診率向上に取り組んでいるが、残念ながら乳がんの罹患率は9人に1人といわれ、近年では20代の若い世代の発症も増加傾向にある。そこで、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 東松島市の乳がん検診の受診率について。</p> <p>(2) 乳がん検診を促すため、検診補助の拡大を含め、啓発活動などの取組について。</p> <p>(3) 補正具などへの助成拡充の考えはあるのか。</p> <p>(4) 乳がん患者同士の交流の場の設置について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏 名 | 件 名 | 要 旨 |
|------------------------------|--------------------------------------|---|
| <p>第12位</p> <p>熱海 千鶴</p> | <p>3. 東松島市におけるLGBTQの理解に関する取組について</p> | <p>2023年6月に、LGBT理解増進法が成立、施行されたことにより、2024年度から小学校の保健体育で使われる教科書で「性の多様性」を取り上げ、LGBTQへの理解が社会全体で深まっている。そこで以下の点について伺う。</p> <p>(1) 東松島市における小学校・中学校でのLGBTQの理解に関する教育の取組の現状について。</p> <p>(2) 児童生徒及び保護者へのLGBTQに関する相談先が必要と考えるが、いかがか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 教育長】</p> |

| 氏名 | 件名 | 要旨 |
|--------------------------|------------------------|--|
| <p>第13位</p> <p>阿部 秀太</p> | <p>1. まちづくりの施策について</p> | <p>会派視察を行った埼玉県杉戸町においては、トップの「まちづくりせよ」の指令のもと、動物公園駅前周辺整備事業にあわせ、専任担当部署を設け、ハードとソフト両面でのまちづくりに取り組み、にぎわいを創出している。具体的には、エリアを限り、スモールビジネス講座によるプレーヤーの輩出とその展開、それを支え伴走する行政のまちづくり担当職員がうまくつながって、善循環がなされている事例を参考に、以下について伺う。</p> <p>(1) 本市では、矢本駅前及び旧国道商店街のにぎわい創出が長年の課題となっている。杉戸町の例に倣い、体制を整備したなかで、例えば駅前周辺整備事業において、エリアを決めてまちづくりを行うなどの考えはないか。</p> <p>(2) 杉戸町において参考にすべき点は、「空白を価値として見直す」「空白をチャンスとして捉える」ということである。歩道、公園、川辺、空き家などの空間を見立て直し、使いたい人が使えるように、場合によっては規制も緩和する姿勢を取り、にぎわいを創出している。このことを本市にあてはめ、各公共空間を見立て直し、まちなかでのイベント、マーケット、小規模出店など、市民の「やりたい」が行いやすくなるような仕組みを構築する考えはないか。</p> <p>(3) 地域で人が挑戦し、人と人がつながる風土の醸成が肝要と思慮する。このことについて、創業までのレベルではなく、スモールビジネス又はナリワイを始める講座を開く考えはないか伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏名 | 件名 | 要旨 |
|--------------------------|--|--|
| <p>第13位</p> <p>阿部 秀太</p> | <p>2. 人口減少社会における「選ばれるまち」の住宅地整備について</p> | <p>現在、本市は地方拠点法を活用し、矢本・大曲・赤井・小松地区において、民間主導の宅地造成を前提とした市街化区域編入を進めている。これまでの市長答弁では、「安価で良質な住宅の供給」「早期の施行」「需要への対応」といった供給量とスピードが中心である。</p> <p>一方で、山形県上山市・かみのやま温泉駅周辺整備のように、行政が理念を示し、ナリワイ講座やワークショップを実施し、「公園住宅」という新しい形の開発を誘導、全国に発信する取組もみられる。本市においても「選ばれるまち」をつくる観点から、以下について伺う。</p> <p>(1) 地方拠点法に基づく宅地開発を進めるにあたり、どのような住環境を実現するのか、将来の都市像と整合しているのか、公共インフラや財政への影響はどう統制するのか、といった長期的な都市政策について考えを伺う。</p> <p>(2) 人口減少下での新規開発は、行政が統括し上山市のような独自の戦略をもって、エリアとしての価値を形成する必要があると思慮するが、考えを伺う。</p> <p>(3) 地方拠点法では開発先行、既成事実に基づく市街化区域編入という手法をとるが、コンパクトなまちづくりに反しないか考えを伺う。</p> <p>(4) 災害公営住宅については、本年2月議会における市長答弁で、払い下げを想定した627戸中、将来払下げ希望は46戸のみとのことである。市街化区域編入と併せ、災害公営住宅の払下げ促進や空き家等の既存住宅ストックの活用についての見解を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏名 | 件名 | 要旨 |
|--------------------------|----------------------|---|
| <p>第13位</p> <p>阿部 秀太</p> | <p>3. 保育の民営化について</p> | <p>去る11月28日の議員全員説明会において、「東松島市公立保育所再編計画」が示された。本計画では、公立保育園の統廃合及び民間移行が段階的に進められ、最終的には公立は約3園となる方針のなかで、直近は赤井地区における公立2園（赤井北・赤井南保育所）と私立1園（ウェルネス保育園赤井）を統廃合し、社会福祉法人タイケン福祉会による定員188人の幼保連携型認定こども園を、令和9年4月に開所するとの内容であったことについて、以下に伺う。</p> <p>(1) 赤井地区の民営化移行について</p> <p>ア 幼保連携型認定こども園の形態を選択した理由及び事業者選定経過について伺う。</p> <p>イ 定員188人規模は規模が大きく、保育の質確保、運営リスクや送迎時の交通量の増加などが懸念される。定員を100人規模の複数園に分散する考えはなかったのか。特に新園は津波浸水想定区域内であり、その意味でもリスクを分散すべきと思慮するが考えを伺う。</p> <p>ウ 今後保護者・周辺住民に対する説明と合意形成はどのように進めていくのか。</p> <p>エ 園庭については、子どもが自然体験できるよう緑化・樹木配置を十分に確保すべきと考えるが、設計に反映されるのか伺う。</p> <p>オ 障害児の受け入れ体制をどう確保するのか。小規模保育環境（少人数スペース等）の整備は行うのか伺う。</p> <p>カ 通常、民営化は「民営化ガイドライン」に沿って選定手続きが行われるべきと考えるが、ガイドラインの策定状況について伺う。</p> <p>キ 廃園予定の2園について、その後の利活用について伺う。</p> <p>(2) その他の民営化について</p> <p>大曲保育所・大塩保育所両園は、令和8年4月に公募を開始し、令和10年4月に民間移行開設を予定している。</p> <p>ア “選ばれるまち”として保育行政の充実は、欠かせないことと思慮する。延長保育以外に特色ある教育・支援策（病児保育、地域子育て支援、英語・自然体験プログラム等）について、市の方針を伺う。</p> <p>イ 保育の多様性を担保するためには、多様な事業者の参入があってしかるべきと思慮する。公募に関する方針及びスケジュールについて伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏名 | 件名 | 要旨 |
|--------------------------|-------------------|---|
| <p>第14位</p> <p>五野井敏夫</p> | <p>1. 熊対策について</p> | <p>本年の熊の目撃情報は、九州地方を除き日本全国では例年より大幅に増加している。特に東北地方では、その数字が顕著である。環境省によると熊類の推定個体数は増加傾向にあり、2025年度の熊による死者数は11月14日現在で13名にのぼる。熊被害と推測される行方不明者も2名出ている。本市においては、まだ人的被害は発生していないが、生活圏での目撃情報があり、11月30日現在では35件にのぼっており、特に旧鳴瀬町地区に集中している。</p> <p>本市の現状と対策については、11月28日の議員全員説明会で説明を受けた。対応としては、目撃情報を入手した場合、市の防災行政無線や公式ライン等で情報発信し、情報提供のあった場所付近を石巻警察署と連携しながら警戒パトロールを行い、行動確認をする。対象周辺の小中学校保育所等には、被害防止資材として、熊鈴や爆竹を配布しているとの説明であった。このような状況下、対応策について伺う。</p> <p>(1) 9月1日から緊急銃猟が可能となったが、有事の際は熊駆除で使用するライフル銃や麻醉銃を取り扱う有資格者が本市にいないため、市外へ応援要請するとあるが、実効性は確約できるのか。</p> <p>(2) 本市において、退職自衛官や退職警察官等への第一種銃猟免許取得のための補助金制度を創設し、有資格者を確保養成してはいかがか。</p> <p>(3) ガバメントハンターを養成すべきと思慮するが、いかがか。</p> <p>(4) 目撃情報多発地域に対する熊スプレー購入等の費用の確保、緊急銃猟のための費用付帯費、箱罟等の購入のための専決予算を500万円としているが、これで十分に対処できるのか。</p> <p>(5) 対象地域の小中学校のスクールバスの運行規定を時節柄柔軟性をもたせて運用してはいかがか。</p> <p>(6) 市民に対して熊対応のマニュアルを作成し、安全性確保になお一層努めるべきと考えるがいかがか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p> |

| 氏 名 | 件 名 | 要 旨 |
|--------------------------|-----------------------------|---|
| <p>第14位</p> <p>五野井敏夫</p> | <p>2. 市街化区域拡大に伴う諸問題について</p> | <p>本市において、住宅建設地の稀少化にともない、宅地価格の上昇による不便が生じたことにより、土地利用計画を見直し、安価な宅地供給を目的とする市街化区域の拡大を図る事業については大いに賛成である。しかし対象地の地権者の方々は、様々な不安を投げかけている。よって以下について伺う。</p> <p>(1) 市街化区域編入時期はいつ頃予定され、それに伴う地権者に対する詳細な説明会を実施する予定はあるのか。</p> <p>(2) 宅地化に当たり、開発行為等は誰が主体的に行うのか。また、それに伴う各種指導や情報提供は誰が行うのか。</p> <p>(3) その際の上下水道工事費用は誰が負担するのか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏名 | 件名 | 要旨 |
|-------------------------|---------------------------|--|
| <p>第15位</p> <p>櫻井政文</p> | <p>1. 高市首相と女性活躍推進について</p> | <p>2025年10月21日に高市早苗氏は、憲政史上初の女性首相に就任した。</p> <p>高市首相は、政治家の家庭に生まれた訳ではなく、ごく普通の共働き夫婦のもとで育ち、神戸大学に進学し、その後、松下政経塾に入塾し、24歳で政治家を志した。</p> <p>高市首相の政治家としての歩みは、必ずしも順風満帆ではなく、落選も経験し、政党も色々変遷したが、自分を厳しく律し、勉強を怠らず、政策通として圧倒的な存在感を確立させ、日本の政界で「ガラスの天井」を破るという歴史を作りあげたのである。就任早々、外交力を発揮、また、すごいスピードで政策を推し進め、女性リーダーとしてのその働く姿勢と覚悟は多くの人々が共感を示している。高市首相は、とりわけ働く女性が期待を抱く存在と考える。</p> <p>そこで、今が女性活躍推進のタイミングと捉え、以下、見解を伺う。</p> <p>(1) 本市のこれまでの女性活躍の推進の取組と現状、今後の推進方法を伺う。</p> <p>(2) 本市の女性議員の比率を高めるための支援体制について。</p> <p>(3) 本市女性管理職と各種審議会の女性委員の登用率の現状と登用率向上の取組について。</p> <p>(4) 本市民間企業における女性の管理職比率向上策と女性の創業支援の強化について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏 名 | 件 名 | 要 旨 |
|--------------------------|---------------------------|--|
| <p>第15位</p> <p>櫻井 政文</p> | <p>2. 災害時の独居老人等の対応を問う</p> | <p>今年7月に発生したカムチャッカ半島付近地震での津波避難行動に関し、県は沿岸15市町村住民の避難行動のアンケート結果を公表した。避難した住民は全体の約25%で避難指示から、15分以内に避難した人は4割未満であった。また、自動車で避難した人は約66%で、県の分析では、避難行動と方法について今後課題を残したと聞いている。そこで、以下の点について見解を伺う。</p> <p>(1) 本市の状況はどうであったか。課題についての見解と対策について。</p> <p>(2) 避難者のパーセンテージからすれば、避難しなかった残り75%の人の中には、標題の人も多数含み、何らかの理由で逃げなかったと思われる。市はこれらの理由の分析をされたか。また、その対策について。</p> <p>(3) 特に標題の人々については、声がけをされなかった人がいたと聞いているが、弱者リストの漏れがあると思われる。弱者救済体制の見直しが必要と考えるが、その対応策について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |

| 氏 名 | 件 名 | 要 旨 |
|--------------------------|-------------------------|---|
| <p>第15位</p> <p>櫻井 政文</p> | <p>3. 重点支援地方交付金について</p> | <p>内閣府は、エネルギー・食料品価格等の物価高騰の影響を受けた生活者や事業の支援を通じた地方創生を図るため、交付金の拡充を決定した。内閣府からは、交付対象事業の基本的な考え方と推奨事業メニューが示されているが、本市としてはどのメニューを選択するのか。あるいはメニュー以外の単独事業に交付金を振り向けるのか。政策効果を考慮しての判断だと思料するが、交付金の取り扱いに関する見解を伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p> |